

風土かふえについて

高橋 敬子



豊島区池袋西口地区を住み続けたいまちにすることを旨として、立教大学ESD 研究所、西池袋南町会、マテックス (株)、NPO 法人としま NPO 推進協議会、NPO 法人ゼファー池袋まちづくり、NPO 風土-Kazetsuchi-等の地域の団体が集い、2014 年 3 月に「としまちプロジェクト運営協議会 (会長 阿部治)」を設立した。同協議会では、西池袋の強み・弱み等を話し合ったうえで、①人と人をつなぐ、②人と自然をつなぐ、③次世代に残したい宝を守り伝える、④新しいまちの価値づくりの4つの西池袋の持続可能な未来像を打ち立てた。そして、持続可能な西池袋の達成に必要な活動の一つとして、地域のコミュニティカフェである「風土かふえ」を継続的に実施することとした。(下図 参照)

風土かふえとは、「風の人、土の人とが気軽に集い、お茶やお菓子を楽しみながら、豊島区のさまざまな魅力について語り合う場」

のことである。2009 年～2011 年までに実施した過去4回のかふえは、立教大学ESD 研究所、西池袋南町会、NPO 風土-kazetsuchi-が協働で、エコ、ご近所力、まちづくり等のテーマで実施してきた。2014 年のとしまちプロジェクト運営協議会設立以降は、多くのステークホルダーが関与している長所を生かし、テーマや対象者も広げて、かふえの中でシンポジウムを開催する等、より大きな取り組みを実施することができるようになった。

7 回目のかふえは、風土かふえ初のテーマとなる多文化共生を扱った。地元の人、外から来た人 (外国籍を持った方等) が豊島区でともに住みやすいまちをつかっていくために必要な視点等について話し合うシンポジウムの他、豊島区を中心に活動しているアコースティック・ユニットによるミニコンサート、西池袋及び豊島区で活動している団体の活動展示を実施し、情報交換・意見交換の場となることを目指した。

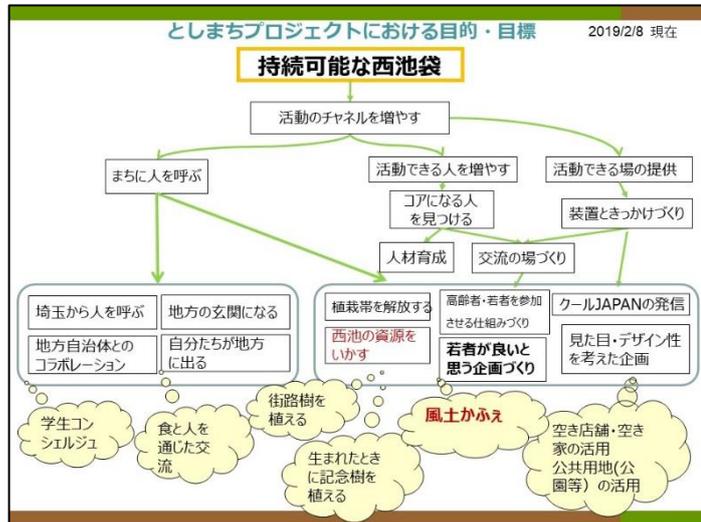


図 持続可能な西池袋を達成するために必要な活動

(たかはし・けいこ 立教大学社会学部/ESD 研究所 教育・研究コーディネイター)